

早稲田大学 政治経済学部 日本史 講評

〔総合分析〕

出題形式	マーク・記述併用
試験時間	60分
特徴・その他	一部に難問が見られるものの、全体としては非常に解きやすい問題だった。合格ボーダーラインが高く、9割得点も可能だったのではないか。実際、2問しか間違えなかったという報告も届いている。

〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
I	遣唐使・武家諸法度	早稲田定番のテーマからの出題。難問はほとんどない。	やや易
II	江戸時代の経世思想	未見史料問題だが、設問文から史料の出典はわかるだろう。A 3のみが難問。	やや易
III	近代の軍制・経済	A 8がやや難しい。田中製鉄所とは、釜石鉄山が田中長兵衛に払い下げられて設立された釜石鉱山田中製鉄所のことである。	やや易
IV	大正・昭和前期の政党 内閣	A 2は大問5題の中で最も難しい問題だった。一方Bの論述は、「論述問題は戦後の内閣」という前例を破る出題だった。いつのことまでを書くかが条件設定されていないため、解答作成に手こずった人もいるだろうが、テーマ自体は簡単なので高得点が狙えただろう。2008年度向けの対策としては、近現代全般に広げて論述対策を行う必要がある。	やや易
V	戦後の外交	A 1がやや難しいが、冬期講習の「テーマ別日本史(近現代)」で扱っていた内容である。	易

【難易度の表記について】

<易> 全問正解できる問題です

<やや易> 1問を除いて、残りは正解できる問題です

<標準> 2問を除いて、残りは正解できる問題です

という具合になっています。